

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成20年2月16日
第37号

『立正安国論』奏進750年 現代における教化活動とは

第6回 日本山妙法寺

末法万年の御諫曉

日本山妙法寺 牧野行暉

立正安国とは、建立正法、安穩国家を標榜したものであります。その仏国土成就の為に「一天四海がごとごとく、妙法に帰せずばならず」と宣言されたわけですが、国家と言っても狭義の国家ではなく、広くは一閭浮提に及ぶ国家を意味して居りましょう。

妙法に帰するとは、本門の教主釈尊が久遠の昔に開覚された真理の世界に帰依を捧ぐるということです。

立正安国論奏進以来七五〇年(平成二十一年)に近き今、世界の状況は如何でありましょうか? 世界各地において戦争は止まず、飢饉、疫病、環境汚染は地球規模で拡大して居ります。日蓮大聖人様が提唱された立正安国の国家は、更に更に希求され、要望されねばならぬ時であります。

法とは

論に曰く「国は法に依て昌え、法は人に因て貴し」国即地球と考えるならば、この地球上に共生する一切衆生が榮えて行く源は「法」に由ると宣明されています。その法とは如何なるものでしょう。いわゆる罪を裁く法律でもなく、物質的繁栄をめざす経済でもなく、国家的憲法でもありません。その法とは釈迦牟尼世尊が久遠の昔に悟られた「難信難解」の法であり、舍利佛尊者、天台智者大師といった智者すらも、己が智分を以ては達することの出来ぬ法だと説かれています。けれどもそ



釈迦牟尼世尊が滅度し給いて二千年も経過いたしますと、仏法の利生は漸くに失われ、人心は荒廃し、無仏不信邪見熾盛の時代(末法)が到来します。現代世界の人々には増々正法(本心)を見失って悪知識にたばらかされていきます。世界の大国は武力を

白法隠没、闘争堅固の時代

而れば如何なる方策に由つて、われら五欲熾盛の荒凡夫が、その境界に到達することが出来るのでしょうか? ただひたすらに信を以て、「意」に釈尊の御心を頂戴せんと「渴仰恋慕」し、「口」に南無妙法蓮華経とお唱え申し、「身」に一切の対境(法界)に対して礼拝を行す事です。身口意の三業に受持する日々刻々は、やがてその暁に「我等此の五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与へ給ふ」と仏果を成就し、日々あさましき凡夫身のままに、「無上宝珠求めざるに自から得たり」という即身成仏の大歓喜心が到来することでありましょう。

その「妙法」に開覚するには



の法は、一切衆生の己心中ばかりか、森羅万象の中にも通貫して用いている「妙法」だと説かれています。その意味は国土世間をも衆生世間をも汚濁に染めて亡ぼしても余りある核兵器の存在も、核廃棄物の処理も見つからぬままに運転し続ける原子力発電所の存在も、人類、十数億年の歴史が近々この百年の間に、その存亡が問われるまでになったのも、所詮衆生己心中の一念の転倒からです。



一言要法南無妙法蓮華経

この五濁爛漫の時代と人を救済せんが為に、仏陀世尊は久遠の昔より、弟子を教化して来ました。そしてその弟子たちに託されたのは一代の教説でもなく、一部八巻でもなく、南無妙法蓮華経の五字七字でありました。仏陀世尊の鳳勅に召されたのは大地から湧出した六万恒河沙とも説かれる大菩薩方でありました。この菩薩方は仏心を見失った衆生の心田に先ず、仏種を植えること

を使命とした菩薩方です。釈尊御在世の妙法蓮華経は成仏の為の利益でありましたが、末法という今日に於ては種々まきの利益です。

南無妙法蓮華経は万年の外未来までも流るべし

この宇宙には、仏陀の教説が天鼓となつて自然に鳴り響き、天上界では諸天善神が法の鼓を撃つて妙法を讃嘆していると説かれています。また太鼓の二音は「苦悩の衆生を度す」とも説かれています。日本山妙法寺の「撃鼓宣言」「但行礼拝」「立正安国」の御修行はこの経文の実践実践修です。日本山妙法寺山主、藤井日蓮上人は「吾に行脚の修行ありて近くは西天開教の大誓願、遠くは一閭浮提皆妙法の大誓願海をみたすことを得せしむべし」(昭和八年二月二十六日「仏舍利縁起」と仰せられています。手に鼓を打ち、口に南無妙法蓮華経の要法を唱え、身に礼拝を行じ、十方世界を周旋往返した行脚の功徳が、仏舍利塔建立ともなり、ガンディー翁との会見ともなり、鼓を打ち、南無妙法蓮華経の祈りをアシラム(道場)の朝夕の祈りの中に取り入れられました。それを以て恩師上人は、西天開教すなわちインドの立正安国が成満したとお考えになりました。「見宝塔」の経文は經典上の単なる理の法門ではなく、事の法門としてこの地上界に湧現するのです。昨年十一月にインド国の首都デリーに大宝塔様が湧現いたしました。その様子が湧現いたしました。法華経を如説修行した功徳として古仏、多宝如来が証明されたものと信じます。



仏陀世尊滅後二千五百五十余年に垂とす今日に於いて、我等日蓮大聖人様の弟子檀越に連なる者、時々刻々に南無妙法蓮華経とお唱え申し上げて、異体同心にして仏国土顕現に精進させて頂きます。合掌三拝 ます。

写真説明(中央・左) デリー仏舍利塔落慶法要(平成19年11月14日)、(右) 上・左) ラジプラ・ニューデリー平和行進

天鼓自然鳴と宝塔湧現

日蓮大聖人様は娑婆一期の御化導を終えられて最後、御歳六十一歳の時に多摩川のほとり池上邸にて示寂されました。この人界最後の御壽命の際に、御身を柱に持たせ掛けられながら立正安国論を御講讀あそばされたと言つては如何にこの一事の中に本化上行菩薩としての大使命を果さんが為の大慈と、末法万年の苦患を救わんが為の大慈が隠されて居りましょう。

不軽菩薩の利益とは

「末法には一乗の強敵充滿すべし。不軽菩薩の利益此なり。」一乗の強敵とは現代に於いては果して誰を指すのでありましょう。その強敵とは「未だ得ざるを為れ得たり」と謂ひ我慢の心充滿するわれら一切衆生でありましょう。現代悪知識に「毒氣深入」され、本心を失った我らがごとであります。誹謗正法の第一は「橋慢心」から発することであれば、われらが呵責せねばならぬ強敵とは自他共の増上慢心でありましょう。この病い最も深き時代と人を救わんには、一にも二にも「他事をすてて南無妙法蓮華経と唱ふ」べきであります。宇宙法界を「唯一仏乘」と信受して、但行礼拝に徹すべきであります。軽蔑憎嫉の中を強盛に南無妙法蓮華経と「而強毒之」すべきであります。現代に不軽菩薩の芳躅を踏むべきであります。

從地ゆじゆつ

昨年十二月、法務省は、三人の死刑囚の刑執行を発表した。今回の刑執行では、死刑が適正に執行されていることについて国民の理解を得るためという理由で、三人の氏名等を初めて公表し、その事が新聞・テレビで大きく報道された。国内では、死刑廃止よりも死刑存続のぞむ声のほうが大きいようだが、この話題が出るたびに必ず思い出すのが日蓮聖人の、「浅き罪ならば、我よりゆるして功徳を得さすべし。重きあやまちならば、信心をよげまして消滅さすべし。」という御遺文と、国柱会創始者田中智学居士の、「死刑を廃止せよ、ということとは、法律上の議論でなくて、法律以上の人生道義観から来るもので、世に殺人が公認されない如く、国家も人を殺してはならぬ、ということの原則とする。せっかく世に生まれ出たものを、国家としてこれを殺すということとは、天然理法に対する一種の反逆であつて、死刑には悔悟の余地が残されない。極刑は殺さずともいくらでも課し得る。しかしして悔悟の余地が与えられる。罪を憎んで人を憎まずと、けだし国家司直の精神である。」という言葉である。この意見自体には反論も出るだろう。しかし刑罰の問題に関わらず、現代の諸問題について考え、積極的に発言していくことは、これからの日蓮聖人門下には必要ではないだろうか。(真)

『リレー提言⑤』門連の歩みと次代への発信

日蓮聖人門下連合会の歩みと展望



日蓮聖人門下連合会理事 法華宗 眞門流 上田浩岳

発足当時の情熱

日蓮聖人門下連合会は発足当時の関係各位のご尽力によって発足したのですが、詳細については記録も知識もありませんので、間違ひ、失礼がありましたらお許しを頂きたいと存じます。私の場合は昭和四十年代当初から時折参加しながら四十年が経過したことになり、先輩各上人方が議論されていくつかの事を振り返ってみたいと思います。先ず最初に耳に入り記憶に残っていることは身延山の開放といった言葉で表現されていたことがらです。日蓮宗の方々は法主親下に就任する法類の限定を無くそうという解釈だったように思えますし、法華宗関係の方々が懐いていた開放の意味するところは御廟所の開放だったと記憶しています。

全国での活動

その次には全国各地に門下連合会の活動単位を設置したいということでした。お手本というか雛型として京都日蓮聖人門下連合会が話題の中心を占めるようになり、京都には昭和二十七年四月八日釈尊降誕会を奉行するに際し、法脈のこだわりを離れて大同団結し大成に導いたことを端緒として、その気風は大切に温存されました。そしてそれは昭和三十三年京都聖祖門下連合会・昭和四十年以降京都日蓮聖人門下連合会として確固とした基盤を築き、役員、会員、檀信徒の入れ代わり交替はありましたが、今日までその活動は続けられています。

主な活動として御降誕会・比較山の立教開宗会・夏期大学・御会式の四つの行事を奉行しています。どの行事にも寺院方、檀信徒こそって多数の参加を得て京都法華門徒の力量を誇示しています。関係各位のご尽力に敬意を表します。これを見習って各地に支部をという要請をされたようです。結果としては大阪に法華門流懇話会が発足し、北海道に準備会のような協議会が持たれたようです。当時京都理事会の方々は先ず東京に京都

御眞骨を御廟所に移すことが妥当かどうかとか、山津波、盗難等、万に一つの危険はないか等々の議論をかなり真剣になさっていました。行き帰りの車中でも情熱的に話をされておられた貴首様もいらつしやいました。しかし結論らしいものを見る事も無く当事者が退任されたり交代があったりして従来のままの護持がなされているようです。今となつては懐かしい思い出です。

次に身延理事会の次第の中に法主親下とのお挨拶というか、ご対面というか大奥というところに何一つおむろに襖が開けられてこ

対面といった感じのご挨拶が有ったように記憶しています。大奥で昼食を頂戴した記憶もあります。これもいつの間にかなくなっていました。

のような連合体を作って独自の活動を始めるべきではないかという事を力説されてきました。これも実現されずに今日に至っているようです。大阪の方々は日蓮聖人門下連合会と名付けると支部扱いにされてしまうからという理由で懇話会という少しばかりずらした位置を保持されていると承知しております。北海道についてはごく最近になって結成は無理だから準備会自体を解散する旨報告がなされたように伺います。

思います。京都の場合は法華宗側と日蓮宗側とが隔年毎に当番制を敷いて運営されています。しかも法華宗側には各宗・各派の総本山・大本山が含まれていますのでその単位で物事を処理するという他府県では真似の出来ない有利な面を持っています。このように京都ならではの背景を考慮に入れて他の地区の連合結成が如何に困難であったかを理解した方が分りやすいと思います。京都以外で連合体を結成するのは極めて困難な作業だったのだと結成には至りませんでした。各ブロックにおいては尽力された方々のご苦勞をのびます。これらの事例はその時々

に於いて各宗、各派、各教団の代表の方々が真剣に思いを出し合つて議論された事柄ばかりです。各グループごとにそれぞれ微妙なニュアンスのこだわりを含んでいて運営には綱渡りのような危うさを感じたことがあります。このような経過を経て今日の日蓮聖人門

下連合会が運営され、その過程に於いて日蓮聖人展、青年の船等の成功をみてきました。また新たな企画として法華経・立正安国論を含めた町衆文化の展覧が考えられていると聞き及んでいます。先輩諸上の方の思いを大切にしてい実りある結果が得られるように心を一にした相応の協力が必要と感じます。

いまが必要なのか

立正安国論奏進七五〇年を目前にして安国論一辺倒でといった過激とも思える意見もあります。正法を建立して日本国民及び世界中の人々を安んずること。住んで守る諸天善神がこの国を見捨てて禍が起ると論じられました。日蓮聖人の教をストリートに解釈するならば釈尊の魂は法華経に込められている。この法華経を信じることによって人々は幸せになれるしならなくてはならない。信じる人々の住む国土が平穏でなくてはならない。

日蓮聖人の心にも懐かれていたのは、釈尊（法華経）と人々と国土といえましよう。とき恰も地球の温暖化、環境破壊が緊急の課題になっています。南極の氷河の崩壊が象徴的に放映されたりしています。研究者、関係者は以前から警告を発していたのでしようが国民は余り気に留めていませんでした。これは仏教を取り巻く環境が思いのほか劣化しているのに気付かなかつたのと似通っているように思えます。法華経を信じる人々が安心して住める地球を守る為に立正安国論の出番かとさえ思えます。サッカーの日本チーム岡田武史監督は地球環境保全のため自分専用の割り箸を持参されているとか。振り返ってあなたは環境に優しい事を何かしていますか。人様に申し上げられるようなことは何一つありませんが、なるべく車

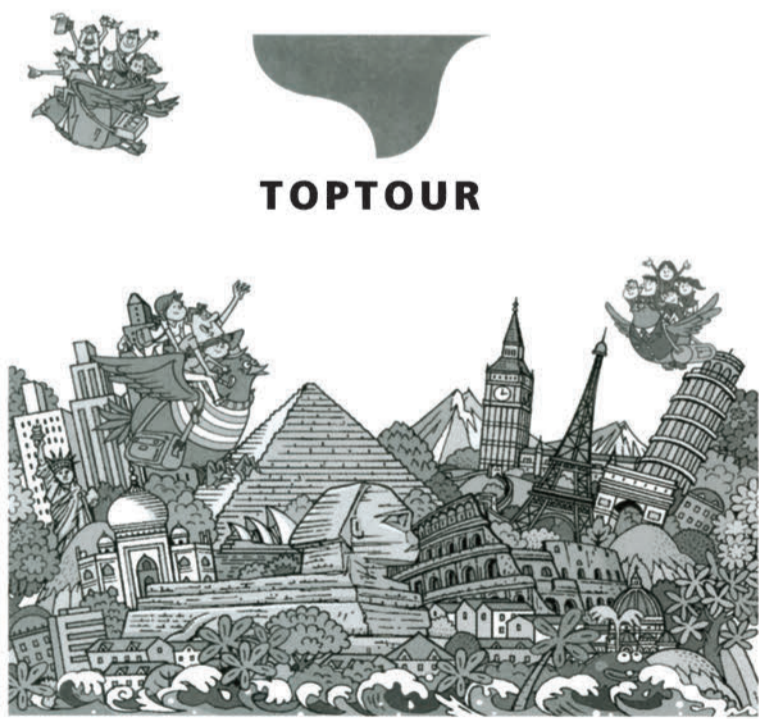
に乗らずに公共交通機関を利用しているぐらい。日蓮聖人が愛された国土の安んずるため門下連合会として今日からでも明日からでも誰にでも出来る分りやすい提言を発信できたらと期待します。宗教学者の公益性が疑問視され今一步のところで踏みとどまっているような状態です。寺院に直接公益活動をしなさいといっているわけではありませんが、税制の面で優遇すべき存在とは思えないという

のが周辺の眼差しです。宗教は宗教本来の主体性、活動分野を持つていますが、檀家でも信者でもない人々から見た場合の存在価値・必要性も求められてもいるようです。美しい地球を子や孫にというスローガンも目にとまっています。京都議定書に続く数値を含む次のステップが求められています。七五〇年の節目は立正安国論に示された日蓮聖人のお気持と生態系を充分に理解した上での緑豊かな地球

人が行き、人が集つ、それが旅。

旅は人と人とのコミュニケーションの架け橋
旅は人と自然が触れ合う地球の扉
旅は人と歴史をつなぐ時空間のトンネル
そんな旅を創造し、提案する「旅行インテリジェンス企業」それがトップツアー株式会社

東急観光は50年にわたる第一幕からトップツアーとして新たな第二幕のステージに立ちました。
みなさまから愛される企業をめざして.....



東急観光株式会社は2006年創立50周年を機にトップツアー株式会社として生まれ変わりました。



東急観光が社名を変えました。 トップツアー株式会社

国土交通大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員 〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号 http://www.toptour.co.jp http://toptour.jp

平成二十一年七月十六日は
『立正安国論』奏進七五〇年
を迎えます



(平成二十年二月現在)

日蓮宗宗務院

管長	酒井 日慈	財務部長	駒野 教源
宗務総長	小松 淨慎	宗務総長室長	長 亮行
伝道局長	伊東 隆司	現代宗教研究所長	田澤 元泰
総務局長	張田 珠潮	参 与	堀江 宏正
伝道部長	梶山 寛潮	参 与	浅井 玄裕
教務部長	渡辺 照敏	日蓮宗新聞社長	伊東 正光
総務部長	藤岡 暎邦		

〒146-8544 東京都大田区池上一-三二-一五
電話 〇三(三七五)七七八一
FAX 〇三(三七五)七七八六

法華宗(本門流)宗務院

管長	有原 日龍
宗務総長	原井 慈鳳
教学部長	桃井 晋城
教化部長	杉村 眞宏
庶務部長	矢吹 慈英
財務部長	加藤 信淨

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二-一九-一
電話 〇三(五六一四)三〇五五
FAX 〇三(五六一四)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管長	中村 日玄
宗務総長	藤崎 広学
宗務次長	島田 幸晴
財務部長	藤崎 行学
布教部長	早川 正学
社会部長	阿曾 久成
教務部長	古瀬 久馨
庶務部長	津村 乗信

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管長	椿澤 日壽
宗務総長	土屋 善敬
総務部長	佐古 弘文
教学部長	田邊 円祥
教化部長	佐古 大弦
財務部長	牧野 秀成
宗務参事	金原 孝宜

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-三五-一六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三九一八)七二九〇

本門佛立宗宗務本庁

講 有	小山 日誠
講 尊	梶本 日裔
講 尊	野崎 日丞
宗務総長	佐藤 日鳳
宗務副総長	梅田 日芳
宗務副総長	嶋田 幾雄

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上東堅町二-〇番地
電話 〇七五(四六一)一五六六
FAX 〇七五(四六一)一五六六

日蓮本宗宗務院

管長	嘉儀 日有
宗務総長	原 智功
総務部長	長崎 秀要
財務部長	原田 智光
教務部長	原 光明

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七二)三三三九
FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務院

管長	田中 日生
宗務総長	竹内 正道
総務部長	上田 浩岳
教学部長	井上 隆啓
教化部長	木村 完祥
財務部長	堀立 智泰
社会部長	足立 修学
主 事	山口 英泰
	笹木 研吾

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四二)五七六一
FAX 〇七五(四四二)五七六一

本門法華宗宗務院

管長	高邊 日援
宗務総長	信隆 日雄
宗務部長	増田 隆彦
財務部長	吉村 信彦
庶務部長	土畑 信教
教務部長	音羽 隆全
庶務部長	真鍋 弘喜
門連常任理事	山 下通雄

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五二)三五二七
FAX 〇七五(四五二)三五二七

宗教法人 国柱会

主 田中 壮谷	
主 安中 又六	
理事 本間 直暉	
門連常任理事 仲南 良夫	
門連理事 石見 哲三	
門連理事 森山 真治	
編集委員	

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一-一九-一八
電話 〇三(三六五六)七二二一
FAX 〇三(三六五六)九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会


会 長	高邊 日援
副会長	永田 日洵
理事 長	石崎 光教
副理事長	藤井 照源

京門連事務局
〒606-8376 京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内 日蓮宗京都府第一部宗務所内
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首 座	吉田 行典
長 老	酒井 天信
長 老	今井 行康
長 老	池田 行朗
長 老	二宮 和嘉
長 老	木津 博充
長 老	川岸 行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812 東京都稲城市矢野口三五七-一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七九)〇七四四

<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(六二二)一〇一一 FAX 〇五五六(六二二)一〇九四</p> <p>法主 内野日総 総務 井上瑞雄</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 8576 東京都大田区池上一一―一 電話 〇三(三七五二)二二三一 FAX 〇三(三七五二)三三五〇</p> <p>貫首 酒井日慈 執事 早水日秀 役員 一同</p>	<p>法華宗(本門流)大本山 本能寺</p> <p>〒604 8091 京都市京都市中京区寺町通御池下 電話 〇七五(二二二)五三三五 FAX 〇七五(二二二)二八三八</p> <p>貫首 岡本日巨 執事 桃井晋城 役員 一同</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九二)七二七一 FAX 〇七五(七九二)七二六七</p> <p>貫首 中村日玄 執事 島田幸晴 執事 山本晃道 執事 中村英司 執事 湯原正純 執事 小川正義</p>
<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇 電話 〇二五六(三三三)〇〇〇八</p> <p>貫首 椿澤日壽 執事 栗田孝之 執事 笹原壯玄 執事 鈴木顯正 執事 荒川公孝 執事 近藤正文 執事 五十嵐義昭</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四二)五七六二 FAX 〇七五(四四二)五六六六</p> <p>貫首 田中日生 執事 本多信正 執事 足立真正 執事 永岡悠正 書記 笹木研吾</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺町八七五 電話 〇七五(四五二)三五二七 FAX 〇七五(四五二)三五九七</p> <p>貫首 高邊日援 執事 石崎光教 役員 一同</p>	<p>多寶富士山 日蓮宗 本山要法寺</p> <p>〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八 電話 〇七五(七七二)三三九〇 FAX 〇七五(七七二)五九一四</p> <p>貫首 嘉儀日有 大學 丹治日有 執事 原長智功 執事 原田秀要 執事 原田智光 執事 原田智明</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ノ鼻町一〇五―一 電話 〇七五(四六三)四六二〇(代) FAX 〇七五(四六三)四六五一</p> <p>住持 小山日誠 二十四世譲有 執事 中西清乘 執事 伊藤隆之 事務局 伊藤隆之</p>	<p>日蓮聖人出家得度の霊跡 大本山 清澄寺</p> <p>〒299 5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一 電話 〇四(七〇九四)〇五二五 FAX 〇四(七〇九四)〇五二七 団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。</p> <p>別当 中條令紹 執事 佐々木光道</p>	<p>京都八本山会</p> <p>大本山 妙願寺 貫首 南條日慈 大本山 本圓寺 貫首 吉田日厚 大本山 頂妙寺 貫首 永田日洵 大本山 妙覺寺 貫首 頂岳日選 大本山 本満寺 貫首 伊丹日章 大本山 本法寺 貫首 大塚日行 大本山 立本寺 貫首 上田日瑞 本山 妙傳寺 貫首 野々垣日祐</p>	<p>日蓮宗霊跡本山 比企谷 妙本寺</p> <p>〒248 0007 鎌倉市大町一―一五―一 電話 〇四六七(二二二)〇七七七 FAX 〇四六七(二二二)六九六七</p> <p>貫首 加藤日暉 執事 立野正泰 執事 高作泰寛 山務役員一同</p>
<p>日興上人御廟所 日蓮宗大本山 富士山重須本門寺</p> <p>〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五九〇)〇三〇三</p> <p>貫首 本間日諄 執事 井出教道 執事 井野上正文 参 与 藤先博明</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 0813 千葉県市川市中山二一―一〇―一 電話 〇四七(三三四)三三三三 FAX 〇四七(三三四)一七九六</p> <p>貫首 新井日湛 執事 藤井智光 参 与 田代浩敬 同 渡辺行俊 同 植田樹 同 吉田文樹 同 布施文樹 同 布慈範</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 0013 東京都杉並区堀之内三一―四八―八 電話 〇三(三三三)六二四一 FAX 〇三(三三三)五〇〇七</p> <p>山主 嶋田日新</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七二)〇五六二 FAX 〇七五(七五二)一〇〇四</p> <p>貫首 永田完修 参 与 山田信行 同 伊藤隆司 同 藤井照源 同 藤井知孝 同 川合陽雄</p>
<p>日蓮門下お題目初唱之霊場 日蓮宗本山東身延 藻原寺</p> <p>〒297 0026 千葉県茂原市茂原一―二〇―一 電話 〇四七五(二二二)三二五三 FAX 〇四七五(二二二)一一七三</p> <p>貫首 持田日勇 総務 増田寶泉 執事 富永一道 役員 一同</p>	<p>宗祖御降誕霊場 日蓮宗大本山 誕生寺</p> <p>宗祖御降誕八百年に向かつての祈り</p> <p>貫首 石川日命 執事 村田教清</p>	<p>徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 瑞輪寺</p> <p>除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安</p> <p>貫首 井上日修</p>	<p>平成三十三年二月十六日は 宗祖御降誕八百年を 迎えます</p> <p>〒110 0001 東京都台東区谷中四―二―一五 電話 〇三(三八二)四三三七 FAX 〇三(三八二)七〇三三</p> <p>平成二十年二月現在</p> 

門連時報

全門連京都理事会・ 懇親会、日蓮宗本山・ 頂妙寺で開催

平成十九年十一月二十九日 員あわせて約四十名が参加した。
 (木) 日蓮宗本山頂妙寺(永田 正午)に於いて「全門連京
 都理事会・懇親会」が開催さ
 れ、各本山貫首をはじめ門連役
 念撮影の後、午後二時より客殿



京都理事会 (平成19年11月25日、日蓮宗本山頂妙寺)

にて立正大学名誉教授中尾堯先
 生による「頂妙寺の沿革」につ
 いて大変貴重なお話を拝聴した。
 引き続き、午後三時より「京
 都理事会」が開催された。参加
 者各自の自己紹介の後、小松浄
 慎全門連理事長が座長となり、
 議題に沿って議事を進行。

全門連上半期事業報告、京都
 門下連合会の活動報告、大阪門
 下懇話会の行事並びに活動報告、
 その他では事務局より「御降誕
 八百年慶讃事業」に向けた平成
 二十一年の「立正安国論七百五
 十年」記念事業「日蓮展(仮
 称)」の報告がされた。

又「日蓮展(仮称)」では当
 展覧会に際する門下連合会の意
 思疎通をはかる為に京都事務局
 設立の報告がなされ、日程、名

称等種々意見をいただき、今後
 は更に慎重に京門連と連絡を密
 に執りながら進めていくことと
 なった。
 会議終了後、懇親会の席を南
 禅寺「菊水」へと移し、京料理
 を満喫した。

平成二十年度の京都門連青年会

今回種々お世話頂きました京
 門連の各聖、頂妙寺の皆様には
 厚く御礼を申し上げますと共に、
 今後とも門下連合会発展の為に
 も御尽力賜り度く重ねてお願い
 申し上げます。

今年度、幹事長を勤めさせて
 頂きました日蓮宗の杉若恵亮でござ
 います。当会門青の今年度活
 動方針と致しましては、二〇〇
 四年度から各本山のご理解ご協
 力頂きながら開設して参りまし
 た月一回お寺を開放しての寺子
 屋土曜学校を実施する予定であ

ります。本来の目的を顧みれば、
 二〇〇二年四月から完全学校週
 五日制が新教育法で実施されて
 以来、保護者会や行政機関、民
 間機関、地域団体等土曜日を子
 供達の為にいかに有意義に活か
 すかという試行錯誤の中、継続
 性と場所提供の固定化がどこも
 最大の難関となり一過性の企画
 で対応せざるを得なくなり、も
 しくは各家庭や個人の自発性に
 任ずという傾向に対し、一つの
 提案として各寺院開放推進を提
 唱したのであります。今年度で
 第五回となりますこの企画もさ
 らに内容の充実を図り、各寺院
 で気軽に実施出来る「寺子屋土
 曜学校」モデルデータを記録し
 て参りたく存じます。門連各聖
 のご指導の程、何卒よろしくお
 願い申し上げます。 拝

〈平成二十年度京門青新役員〉

- 幹事長 杉若恵亮(日蓮宗側)
- 副幹事長 藤田尚哉(日蓮宗側)
- 庶務 大川孝瑛(法華宗側)
- 谷口真也(日蓮宗側)
- 三品亮徹(法華宗側)
- 谷口真生(日蓮宗側)
- 高橋宏顕(法華宗側)
- 嘉儀吉裕(法華宗側)
- 鈴木英文(日蓮宗側)
- 三木天道(日蓮宗側)

御遷化	年月日	氏名	宗派	門連役職		
				就任	退任	
	平成一九・一一・七	石山善邦師	日本山妙法寺	常任理事		
人事	平成一九・一〇・一七	藤崎行学師	顕本法華宗	理事		退任
	平成一九・一二・五	阿曾久成師	本門佛立宗	常任理事		退任
	平成一九・一二・五	岡本誠教師	本門佛立宗	常任理事		退任
	平成一九・一二・五	加藤乗安師	本門佛立宗	常任理事		退任
	平成一九・一二・五	佐藤誠泉師	本門佛立宗	理事		退任
	平成一九・一二・五	川手誠廣師	本門佛立宗	理事		退任
	平成一九・一二・一七	仲南良夫氏	国柱会	理事		就任
	平成一九・一二・一七	石見哲三氏	国柱会	理事		就任
	平成二〇・一一・一	永田日洵師	京都門下連合会	顧問		退任
	平成二〇・一一・一	高邊日援師	京都門下連合会	顧問		退任
	平成二〇・一一・一	藤井照源師	京都門下連合会	常任理事		退任
	平成二〇・一一・一	石崎光教師	京都門下連合会	常任理事		退任
	平成二〇・一一・一	本田信正師	京都門下連合会	理事		退任
	平成二〇・一一・一	藤井照源師	京都門下連合会	理事		退任

訂正 (第三十六号第五面「人事」)
 【誤】平成一九・七・一七 別所日山師 本門法華宗 監査 退任
 【正】平成一九・七・一七 別所日山師 本門法華宗 監査 就任
 ※ご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の 伝道紙 **日蓮宗新聞** 毎月1日・10日・20日 年間購読 3,600円(送料込)

教誌 **正法** 年4回発行 年間購読 1,700円(送料込) 一冊350円(送料別)

お正月(1月号) 春季彼岸(3月号) お盆(7月号) お彼岸・お会式(9月号)

お申込みは 日蓮宗新聞社まで 〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3 電話03-3755-5271 FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

日蓮宗

◆総本山身延山久遠寺で百二十年ぶりによみがえる五重塔の上様式が三月十四日に行われる。当日、工事の安全と無事に完成成就することを祈願する予定。

◆日蓮宗は三月四日から七日までの四日間、日蓮宗宗務院で第九六定期宗会を行う。平成二十年年度の予算案や提出議案などが審議される予定。

◆「立正安国・お題目結縁運動」実動一年目を迎えた日蓮宗。その一環として「立正安国・お題目結縁運動」を意義深く推し進めるため、日蓮聖人の布教の原点である「辻説法」を埼玉県川越市で行った。

◆昨年十一月、伊東隆司伝道局長と日蓮宗教師三師が、「小江戸・川越」と称され、年間五百万人が訪れる観光の名所に立ち、行き交う人々を前に街頭布教を行った。(大澤宏明)

◆法華宗本門流 ◆大本山光長寺 貫首大橋日紹親下が任期途中で辞任。選挙の結果、石田日信上人(静岡県信濃寺住職)が当選し、平成二十年二月十六日付で第七十八世貫首に就任、三月十二日に普山式が大本山光長寺において奉修される。

◆二月十四日、第二十一回法華宗宗学研究発表大会が宗務院で開催された。本年は宗門教師諸師による研究発表のほか、平成二十一年「立正安国論」進覧七五〇年を記念する年を迎えるにあたり、本年と明年の二年連続企画の第一弾特別講演として、宗外からは同論を深く研究されている常門寺日蓮仏教研究所主任の都守基一先生、宗内から興隆宗門専門学

校助教教授の株橋隆真先生並びに宗務総長原井慈鳳台下がそれぞれ講演された。
◆古来、門祖日蓮聖人こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授し、かつ宗門の僧侶養成機関である「興隆宗門専門学校」(尼崎・大本山本興寺内)の平成二十年新入生募集中。

顕本法華宗

◆平成十九年八月二十五日、九月八日の十五日間、京都総本山妙満寺において「妙塔宗林」開講。受講生は行学二道の修練に励んだ。
◆十月二十二日、千葉東金妙善寺で「東部僧員研修会」開催。十一月九日、京都総本山妙満寺で「西部僧員研修会」が開催された。

◆十一月十四日、千葉九十九里妙満寺で「東部布教師研修会」開催。十一月十六日、総本山妙満寺を会場に「西部布教師研修会」が行われた。
◆十一月十七日、十八日の両日、品川天妙国寺で法華宗三派統合協議会「統合学院(後期)」開催。

◆十一月十九日、二十日、千葉大綱本國寺を会場に「什門懇話会」が開催された。また、近隣の蓮照寺へも参詣。その後、会場を鴨川温泉「鴨川館」に移して懇親会が行われた。
◆十一月二十五日、ブラジル・サンパウロの顕本法華宗(主管・鍋田浄月師)において、開堂十五周年記念法要が行われた。日本からは、前主管の山本学人師を団長に九名の僧員が参列、盛大に音楽法要を勤めた。本山からも島田幸晴本山総務が参加、貫首親下の祝辞をお伝えした。

◆十二月三日、品川天妙国寺で妙塔宗林林長・大川定信師を講師に「妙塔宗林研究科」開講。(小島芳明)

◆法華宗陣門流 ◆平成十九年九月六日、七日、毎年宗内各教区持ち回りで開催される中央行学講習会が本年は東北教区教区・山形天童を会場に二期二日で開催され、全国より百名を超える教師が集った。

◆一月五日、宗務院に於いて、声明調査の為、比叡山延暦寺より講師として譽田玄光上人をお招きし、各宗派の声明についてお話を頂いた。(三浦賢秀)

◆十一月十四日、宗務院に於いて、布教師所報編集会議が開催された。
◆十一月十七日、十八日、法華宗陣門流・顕本法華宗・法華宗真門流の三派合同で行われる「統合協議会統合学院・後期学生講座」が行われた。
◆本年は、顕本法華宗・天妙国寺を会場に多くの学生が参加した。

◆法華宗真門流 ◆平成十九年七月二十五日、臨時宗会が召集され、宗務総長に現職の竹内正道総長が再任された。これに伴い、新内局が発足。
◆八月二十四日、三十日の間、立正寺(北海道旭川市)に於いて支学林が開講され、二十八日には併せて第四教区の教師講習会が開催された。
◆九月二日、姫路商工会議所に於いて、第三教区佛教大講演会が開催され、参加者約三百五十名の盛大な講演会となった。
◆九月二十八日、二十九日、第二教区合掌の旅と檀信徒研修会が開催された。

◆十月五日、十四日の間、総本山本山に於いて秋季宗門(辻本寛孝学林長)が開講され、宗門の若き僧侶たちが行学二道に精進した。
◆十月十二日、十三日の二日間、総本山本山に於いて「お会式」が奉修され、多くの参詣者が集まった。
◆十二日夜に、「高祖日蓮大菩薩御正當命日法会」が勤修された。引き続き、厳粛な雰囲気の中、新説式(初転法輪)が挙行され、所定の過程を終えた学林本科生六名が、高座に上った。
◆十二月五日、六日の二日間「平成十九年度定期宗会」が開催され、平

成二十年度歳入歳出予算案、権大僧正の推薦など、諸案件について審議された。
◆一月一日、八日の間、総本山本山に於いて年頭国禱会が修され、法華八講が催された。(森田量哲)
◆一月十五日、本山有清寺(京都市)で開導日蓮聖人御正當命日法会に亘って厳修され、全国の信徒の参詣で賑わった。
◆今回は第四座に若い世代の信行相続を促進する一環として「青少年の一座」が企画され、当日は全国から一千二百余名の若人が集って「人間。生かす、生かされる命」をテーマに自己の信心を見詰める貴重な時間を持った。
◆九月二十八日、乗泉寺(東京都)で佛立研究所主催の公開講演会を開催。「このころのことは」と題した外山滋比古御茶ノ水女子大学名誉教授の講話が行われた。
◆十月七日、宗務本庁宗会議場において「インターネット・ミーティング」が開催され、ブラジルやシリランカ等、海外各地で活動する信徒の代表が意見交換を行った。
◆平成二十年は本門佛立宗の信徒がブラジルに移住し、弘通活動を始め、百年の節目となる。現在はブラジル教区に十一ヶ寺三千六百戸の信徒を擁するが、今日までの先師先輩方の苦勞を偲び、また今後の飛躍を期して、三月三十日には講有・小山日誠親下を導師に戴き、リンス大宣寺で「ブラジル開教百周年記念法要」が厳修される。(吉田淳彦)

◆平成十九年十月十二日、十三日、大本山妙満寺(高遠日援貫主)に於いて高祖日蓮大菩薩御会式法要が厳修された。十二日建夜法要には、万灯点灯。十三日祥当法要並びに檀信徒志意法要厳修された。境内にてつくり市、フリーマーケットが開催された。

◆十一月十日、御開山会並びに歴代年忌法要に引き続き別當初代日應僧正五〇〇遠忌大法要が厳修された。高遠日援貫主を総裁に、奉行委員会が設立され、宗務内局・山内内局他役配が決定され、準備計画・大法要が厳修された。

◆本門法華宗宗務院(藤井宏長学院長)では第百二十一回教学講習会を九月六日、七日、第百二十三回教学講習会を十一月二十九日、三十日に、大本山妙満寺卯木講堂に於いて開催。
◆本門法華宗宗務院布教部より、布教誌「生きている」第四十九号華華号、信報『行信』第百六十八号お正月月号を各々一月一日付で発行、門末各寺院に配布。(木村光正)

◆平成十九年七月八日、日蓮聖人顕正会法要厳修。十五日、妙宗大靈廟五箇盆開頭大供養会厳修。七月十六日、日蓮聖人宣正会法要厳修。二十三日、身延山久遠寺にて田中智学先生法勲碑清掃奉仕。三十日、明治天皇祭厳修および明治神宮参拝。
◆八月五日、午後四時半より第三回申孝園夏祭り開催(一般開放。十一日、十三日、第五十四回国柱会少年少女夏期学校開催。国柱会会員の子供達に、夏休みを利用して法要参加・ご修行の練習を実施した。十九日、日蓮主義研究例会開催。二十五日、二十六日、妙宗大靈廟常勤給仕実施。二十六日、田中香浦先生第十二回忌追善法要厳修。

◆九月十二日、日蓮聖人龍口法難会慶讃法要厳修。十五日、国柱会本部理事会開催。十六日、国柱会中央有志清掃奉仕実施。同日、日蓮主義研究例会開催。二十三日、妙宗大靈廟秋季彼岸大供養会厳修。二十九日、熊本・本妙寺にて九州地方連合局会員主催による、六喜廟碑建立七十年慶讃法要を厳修。同碑は、加藤清正公の嗣子忠広公らの遺骨を納めた「六喜廟」に存在する。

◆十月十日、日蓮聖人佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、池上本門寺に於いて、日蓮主義屋外宣法修行。十三日、日蓮聖人鶴林会報恩法要厳修。同日、蓮華サークル(国柱会婦人部主催)開催。テーマは「回向について」。

◆二十日、妙宗大靈廟常勤給仕実施。二十一日、妙宗大靈廟例月供養会厳修。同日、日蓮主義研究例会開催。田中智学先生著「日蓮聖人之教義」(信行編)をテキストに用いた講義を行った。二十七日、二十八日、第四十三回身延天祖廟輪番給仕国柱会奉仕団開催。(森山真広)

◆平成十九年十月五日、御会式

本門佛立宗

◆平成十九年七月十五日、本山有清寺(京都市)で開導日蓮聖人御正當命日法会に亘って厳修され、全国の信徒の参詣で賑わった。
◆今回は第四座に若い世代の信行相続を促進する一環として「青少年の一座」が企画され、当日は全国から一千二百余名の若人が集って「人間。生かす、生かされる命」をテーマに自己の信心を見詰める貴重な時間を持った。
◆九月二十八日、乗泉寺(東京都)で佛立研究所主催の公開講演会を開催。「このころのことは」と題した外山滋比古御茶ノ水女子大学名誉教授の講話が行われた。
◆十月七日、宗務本庁宗会議場において「インターネット・ミーティング」が開催され、ブラジルやシリランカ等、海外各地で活動する信徒の代表が意見交換を行った。
◆平成二十年は本門佛立宗の信徒がブラジルに移住し、弘通活動を始め、百年の節目となる。現在はブラジル教区に十一ヶ寺三千六百戸の信徒を擁するが、今日までの先師先輩方の苦勞を偲び、また今後の飛躍を期して、三月三十日には講有・小山日誠親下を導師に戴き、リンス大宣寺で「ブラジル開教百周年記念法要」が厳修される。(吉田淳彦)

◆平成十九年十月十二日、十三日、大本山妙満寺(高遠日援貫主)に於いて高祖日蓮大菩薩御会式法要が厳修された。十二日建夜法要には、万灯点灯。十三日祥当法要並びに檀信徒志意法要厳修された。境内にてつくり市、フリーマーケットが開催された。

◆十一月十日、御開山会並びに歴代年忌法要に引き続き別當初代日應僧正五〇〇遠忌大法要が厳修された。高遠日援貫主を総裁に、奉行委員会が設立され、宗務内局・山内内局他役配が決定され、準備計画・大法要が厳修された。

◆本門法華宗宗務院(藤井宏長学院長)では第百二十一回教学講習会を九月六日、七日、第百二十三回教学講習会を十一月二十九日、三十日に、大本山妙満寺卯木講堂に於いて開催。
◆本門法華宗宗務院布教部より、布教誌「生きている」第四十九号華華号、信報『行信』第百六十八号お正月月号を各々一月一日付で発行、門末各寺院に配布。(木村光正)

◆平成十九年七月八日、日蓮聖人顕正会法要厳修。十五日、妙宗大靈廟五箇盆開頭大供養会厳修。七月十六日、日蓮聖人宣正会法要厳修。二十三日、身延山久遠寺にて田中智学先生法勲碑清掃奉仕。三十日、明治天皇祭厳修および明治神宮参拝。
◆八月五日、午後四時半より第三回申孝園夏祭り開催(一般開放。十一日、十三日、第五十四回国柱会少年少女夏期学校開催。国柱会会員の子供達に、夏休みを利用して法要参加・ご修行の練習を実施した。十九日、日蓮主義研究例会開催。二十五日、二十六日、妙宗大靈廟常勤給仕実施。二十六日、田中香浦先生第十二回忌追善法要厳修。

◆九月十二日、日蓮聖人龍口法難会慶讃法要厳修。十五日、国柱会本部理事会開催。十六日、国柱会中央有志清掃奉仕実施。同日、日蓮主義研究例会開催。二十三日、妙宗大靈廟秋季彼岸大供養会厳修。二十九日、熊本・本妙寺にて九州地方連合局会員主催による、六喜廟碑建立七十年慶讃法要を厳修。同碑は、加藤清正公の嗣子忠広公らの遺骨を納めた「六喜廟」に存在する。

◆十月十日、日蓮聖人佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、池上本門寺に於いて、日蓮主義屋外宣法修行。十三日、日蓮聖人鶴林会報恩法要厳修。同日、蓮華サークル(国柱会婦人部主催)開催。テーマは「回向について」。

◆二十日、妙宗大靈廟常勤給仕実施。二十一日、妙宗大靈廟例月供養会厳修。同日、日蓮主義研究例会開催。田中智学先生著「日蓮聖人之教義」(信行編)をテキストに用いた講義を行った。二十七日、二十八日、第四十三回身延天祖廟輪番給仕国柱会奉仕団開催。(森山真広)

◆平成十九年十月五日、御会式

国柱会

◆平成十九年七月八日、日蓮聖人顕正会法要厳修。十五日、妙宗大靈廟五箇盆開頭大供養会厳修。七月十六日、日蓮聖人宣正会法要厳修。二十三日、身延山久遠寺にて田中智学先生法勲碑清掃奉仕。三十日、明治天皇祭厳修および明治神宮参拝。
◆八月五日、午後四時半より第三回申孝園夏祭り開催(一般開放。十一日、十三日、第五十四回国柱会少年少女夏期学校開催。国柱会会員の子供達に、夏休みを利用して法要参加・ご修行の練習を実施した。十九日、日蓮主義研究例会開催。二十五日、二十六日、妙宗大靈廟常勤給仕実施。二十六日、田中香浦先生第十二回忌追善法要厳修。

◆九月十二日、日蓮聖人龍口法難会慶讃法要厳修。十五日、国柱会本部理事会開催。十六日、国柱会中央有志清掃奉仕実施。同日、日蓮主義研究例会開催。二十三日、妙宗大靈廟秋季彼岸大供養会厳修。二十九日、熊本・本妙寺にて九州地方連合局会員主催による、六喜廟碑建立七十年慶讃法要を厳修。同碑は、加藤清正公の嗣子忠広公らの遺骨を納めた「六喜廟」に存在する。

◆十月十日、日蓮聖人佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、池上本門寺に於いて、日蓮主義屋外宣法修行。十三日、日蓮聖人鶴林会報恩法要厳修。同日、蓮華サークル(国柱会婦人部主催)開催。テーマは「回向について」。

◆二十日、妙宗大靈廟常勤給仕実施。二十一日、妙宗大靈廟例月供養会厳修。同日、日蓮主義研究例会開催。田中智学先生著「日蓮聖人之教義」(信行編)をテキストに用いた講義を行った。二十七日、二十八日、第四十三回身延天祖廟輪番給仕国柱会奉仕団開催。(森山真広)

◆平成十九年十月五日、御会式

日本山妙法寺

◆十月二十五日、ラジギール第三十八周年法要。
◆十一月十四日、デリー仏舍利塔落慶大法要。
「千年を越す昔からの歴史的建造物で名高いデリーに、平和の仏舍利塔がもう一つの新たな歴史的建造物として、そのリストに加わった。この仏舍利塔は、世界中に広がる平和の仏舍利塔のうち八十二番目にあたり、マハトマ・ガンディーの盟友となつた藤井日達上人のお弟子達によって、平和のメッセージを伝えるために建立されたものである。マハトマ・ガンディーは上人をフジイ・

奉行委員会(本山妙満寺)。御会式の準備(万灯の搬入、組立)。
◆十月十六日、御会式(本山妙満寺)。導師・妙傳寺貫首野々日祐親下、講師・法華宗真門流総本山本山隆寺貫首田中日生親下。
◆十一月九日、理事会。全門連京都理事會・懇談会の件(日蓮宗京一宗務所)。
◆十一月二十九日、全門連京都理事會・懇談会(本山頂妙寺)
◆十二月十九日、午後四時より会計監査(本能寺文化会館)。同日、午後五時より理事会。平成十九年度会務行事報告案・決算案作成。今年度当番本門法華宗本山妙満寺。
◆一月十五日、午後四時半より理事会(ルビノ堀川)。平成十九年度会務報告・決算・監査報告・平成二十年年度会務予定・仮称「日蓮聖人展」について。その他。
◆二月十六日、午後一時より総会。新年度役員紹介・各種議案・審議・承認。同日、午後二時半より降誕会(大本山本山妙満寺)
◆三月六日、午後四時より理事会(大本山本山妙満寺)。
◆四月二十八日、立教開宗会(横川定光院)。
◆六月六日、午後四時より理事会(大本山本山妙満寺)。
◆八月三十日、午後十時より夏期「第四十五回大学」(本能寺文化会館)。同日、夏期大学終了後、理事会。
◆十月三日、御会式奉行委員会(大本山妙満寺)。御会式の準備(万灯の搬入、組立)。
◆十一月十九日、午後四時より会計監査。(藤井照源)

◆十月十日、日蓮聖人佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、池上本門寺に於いて、日蓮主義屋外宣法修行。十三日、日蓮聖人鶴林会報恩法要厳修。同日、蓮華サークル(国柱会婦人部主催)開催。テーマは「回向について」。

◆二十日、妙宗大靈廟常勤給仕実施。二十一日、妙宗大靈廟例月供養会厳修。同日、日蓮主義研究例会開催。田中智学先生著「日蓮聖人之教義」(信行編)をテキストに用いた講義を行った。二十七日、二十八日、第四十三回身延天祖廟輪番給仕国柱会奉仕団開催。(森山真広)

◆平成十九年十月五日、御会式

日蓮聖人門下連合会

◆目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するために、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

◆事業
本会は前条の目的を達成するために、左の事業を行う。

- 1、祖廟護持の組織強化
- 2、教育事業の提携
- 3、布教の連合強化
- 4、懇談会・研究会・講演会等の開催
- 5、各種出版物の刊行
- 6、海外布教の提携及び交流
- 7、対外的な各種の運動
- 8、その他

◆加盟団体
日蓮宗 法華宗本門流
顕本法華宗 法華宗陣門流
本門佛立宗 日蓮本宗
法華宗真門流 本門法華宗
国柱会 日本山妙法寺
京都門下連合会

◆平成十九年十月五日、御会式

◆平成十九年十月五日、御会式

◆平成十九年十月五日、御会式

◆平成十九年十月五日、御会式

◆平成十九年十月五日、御会式

◆平成十九年十月五日、御会式